

学びの活性化を通じた学力の向上

～「学び合い」を通しての人間関係づくりと授業の推進～

導 入

黒板に掲示等して、いつでも確認できるようにする。

- めあて 学習内容「〇〇ができるようになる。考えよう。深めよう。」など
- 活動の目標 全員で、何を、どのように達成するのか
- 授業の流れ 「説明を聞く」「プリントに書く」「学び合い」「振り返り」

展 開

- ステップ1 活動を全員がやる
- ステップ2 教える／説明する
- ステップ3 議論する
- 確認テスト 生徒の理解度のチェック（全員が80%達成をめざす）

*わからないところがあれば、友達に聞きに行く。(席の移動は自由)
*できた生徒は、黒板に名前カードを貼る。
*できた生徒は、名前カードのない

活動の課題設定内容と活動時間

- ①基礎学力定着パターン……短時間（5分程度）
- ②交流・思考パターン……できるだけ時間を確保

※1 ヒントを与えて軌道修正を図ることもある。
※2 生徒に学びが途絶えた場合は、カットすることもある。

振り返り

- めあて 何ができるようになったか。(学習の理解度)
- 活動の目標 活動の目標が達成できたか。(学び合いの評価・感想)

授業前 ～実態にあった良い準備で授業の成功が決まる～

- 実態（生徒の学力、現在の生徒状況、課題の難易度）にあった活動の構成を考える。
- めあての達成は、授業が終わるとめあてができる（に近づく）ようになっている。
- 活動の目標の達成は、毎回ほぼ達成することが望ましい。
- 「学び合い」の答えを導き出すための資料等を、工夫して準備する。

導入 ～特別支援教育の手法を活用し効果的に見通しを持たせる～

- めあて 何ができるようになるのか。
- 活動の目標 みんなで、何を、どのようにすればよいのか。
- 授業の流れ この時間の流れはどうなっているのか。（視覚的に理解しやすいように）

『学び合い』

- 基礎・基本の知識・技能の習得 活用する力（資質・能力を意識して）
- 課題 ①基礎学力定着パターン → 基礎・基本習得（ ）を埋める問題など
②交流・思考パターン → 情報分析や体感したのから答える問題
概念・法則・意図などを解釈して → 記述する問題
※答えを1つにしない課題設定を工夫する。
- 学び合いの 定着： 1人～2・3人 教え合い的
活用： 2・3人以上 説明する。意見交換 意見発展
- 資料の準備 基礎・基本の習得： 教科書，ワーク
活用： 資料集，教師のねらいを持った資料等

確認テスト （必ず実施しなくてもよい）

- 理解度チェック（生徒と教師のため）
活動の目標を達成させ、みんなで授業を「やり遂げた」雰囲気をつくる。

振り返り

- 評価の目的＝生徒自身の自己変容に気付かせる。

授業後 ～教師の振り返り「想定内の授業ができたか？」～

- 授業のめあては、この時間に「何ができる」「どういうことをする」など、生徒にとってわかりやすいものだったか？
- 活動の目標は、実態（生徒の学力、現在の生徒の状況、課題の難易度）に合った想定内の活動になっていたか？
- 個別に指導が必要な生徒に、アドバイスや後指導を行う。

令和3年度「学び合い」 第1回「社会」授業研究より

令和3年5月28日（金）、第四中学校にて、第1回校内授業研の「社会」（第1学年）の授業を行いました。



自分でじっくり考える



どうやってやるんだっけ…？



最後はみんなで「学び合い」

協議会のまとめ

「学び合い」の目的

「学び合い」の目的
…クラスの全員が課題を達成すること。
誰一人として見捨てない学習をクラスで！

だから…
自分ができたら終わりではない。
全員の課題達成を目指す。
何を使っても、誰に聞いてもOK！

手順を視覚化

「学び合い」

- ①「課題①」に挑戦（まず自分で3分考える）
②できたら教卓に見せに来る
③班のメンバー全員が合格したら、班カードを「できた！」にはる
④全班が「できた！」にカードをはる
⑤15分以内にできたらNICE！

1. 今日の授業から ～「学び合いの手法」について～

《協議の柱①：本時の目標を達成するために、「学び合い」が効果的であったか。》

- ・自分が説明するだけでなく、他の生徒の説明を聞く活動が仕組まれており、クラス全員の課題達成に向けて行動する姿が見られた。
- ・「学び合い」活動から生徒に何を気付かせたいか考える。そこから新たな気付き・学びが生まれる。
- ・生徒同士の「学び合い」だけで活動が終わってしまったので、それを全体に共有する時間を。できた言葉を全体にフィードバックしていくことで、理解が深まっていく。
- ・終末に「なぜ？」と問うことで、「本質的な問い」につなげていけるとよい。

◎教科の本質を見失わない「学び合い」活動・・・〇〇科のどのような見方・考え方を身に付けさせるか。

★今後の課題「学び合い」のレベルアップを。どう取り組ませるか、どうかかわらせるか。

《協議の柱②：「学び合い」活動を支える教師の言葉がけはどうだったか。》

- ・生徒の活動の良さを伝え、はげます言葉があった。
- ・「学び合い」の目的が生徒にも共有されており、生徒の活動を引き出す工夫もあった（パワーポイントでの手順指示、タイマーでの時間設定など）。特別支援が必要な生徒への配慮にもなる。
- ・できた生徒、まだがんばっている生徒、両者に対する声かけ。双方向の動きを生み出す。
- ・最後はみんなで課題達成できたことで、学級の雰囲気もよくなっていた。人間関係の醸成。
- ・教師のファシリテート力が問われる。語りすぎず、どのように生徒を動かしていくか。

《協議の柱③：主体的・対話的で深い学びにつながる問いが設定されているか。》

- ・難しすぎず、簡単すぎず、生徒の実態に合わせた難易度を。
- ・「そう考えた理由」を文章で書かせる活動については、改善の余地あり。箇条書きにさせるなどして時間を短縮させることで、今回カットした、最後の確認テストを実施する時間が生まれる。

2. 深見指導主事の指導助言（指導案指導）から

- ・時差の学習・・・具体的な生活場面を想像させることで、時差の学習の必要感や切実感を持たせる。
時差を考えさせることで、どのような社会科の力を身に付けさせる時間にするのか。
- ・課題提示の方法・・・必要感をもって考えられるような提示の工夫ができるとよい。
- ・全体交流をして、自分の表現でアウトプットする場面を。分かったつもりで終わらない工夫。
- ・交流の際、クロームブックの活用も効果的。（ジャムボードに図をはっておき、そこに考えを書かせる。）

◎「各教科の見方・考え方」、「本質的な問い」に迫る「学び合い」学習に

令和3年度「学び合い」 第2回「国語」授業研究より

令和3年7月9日（金）、第四中学校にて、第2回校内授業研の「国語」（第3学年）の授業を行いました。



班で考え(言葉)を出し合って



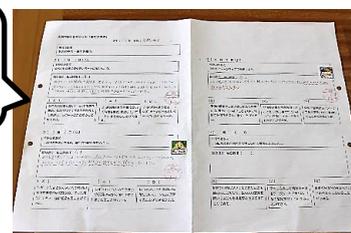
各班の解釈を全体で確認



“ジャムボード”を使いこなす生徒

協議会のまとめ

単元のふりかえりシート
ルーブリックも明確化



1. 今日の授業から ～「学び合いの手法」について～

- ・「学び合い」をしながら、俳句の遊び心をとらえた生徒の姿があった。
→「学び合い」があったからこそその気づき
- ・ジャムボードの活用・・・手が止まった生徒も、他の生徒がはったふせんを見て書き始めることができた。
- ・積極的に知識を調べる意欲・・・指示のない、花言葉まで調べる生徒
- ・できた・できないにとどまらない「学び合い」ができた。他の人の解釈が見方・考え方を養うことに直結。
- ・先生の、生徒への丁寧な関わりが光った。細やかな問いを丁寧に設定されている。最後の全体交流の場も、生徒の意見に傾聴し、それをうまく受け止めながらまとめをされた。
- ・活動していく中で、生徒の解釈を聞き、先生自身も新しい発見が。先生と生徒も「学び合い」。
- ・ふりかえりについては、「主体的な学びをみとることができるふりかえり」を意識していく。
どのように生徒が取り組んだか。表現はしなくとも、理解できている・考えている姿をみとる。

2. 深見指導主事の指導助言から

①子どもへの関わりの丁寧さ

- ・生徒から引き出したい言葉を事前に想定し、その言葉に向かわせるためには、どう問うたらよいかを考えながらの机間指導。事前の、表には見えない授業の準備の賜物。その丁寧さが、生徒に考えさせる問い方につながっていた。

②四中の「学び合い」

- ・本時の授業は、みんなが分からない世界であり、みんな同じスタートラインから始まった。
⇒スタートラインを同じくすることで、分からないことも聞きやすい&調べやすい環境・雰囲気
- ・chromebookを活用し、自分のできる調べ方で調べる姿◎→みんなのできる活動に
- ・学級に認め合える雰囲気があるからこそその「学び合い」

③ふりかえりシート・問い

- ・本時の目標が子どもにとっての必要感につながるものになっているか。=子どもの「〇〇したい」や、「〇〇しないと」とつながっているか。（参考）テレビ番組の企画の活用
- ・三原市の「問いの設定」を意識した授業を。最後のゴールイメージから、「問いの設定」が見えてくる。

令和3年度「学び合い」 第3回「体育」授業研究より

令和3年9月24日（金）、第四中学校にて、第3回校内授業研の「体育」（第3学年）の授業を行いました。



グループでポイントを確認



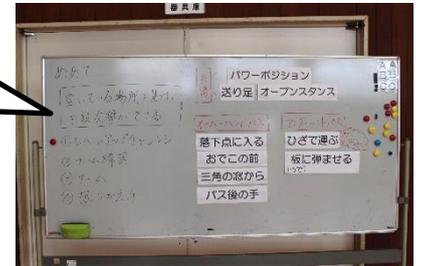
動と静を意識した指示・進行



的確に生徒の話し合いに関わる

協議会のまとめ

シンプルで、
焦点化された板書



1. 今日の授業から

- ・動画を見ながらの先生の声かけの温かさ。少々失敗しても大丈夫…と勇気づけられてプレーに入ることができた。果敢にチャレンジする生徒の姿。
- ・本時の目標が明確で、達成したいことが焦点化されていた。
- ・クラスの雰囲気の良い。土台は、先生の子どもの個性の理解。相乗効果で授業の雰囲気がよくなった。
- ・「あなたも主演」。生徒全員にスポットライトをあてる先生の声かけが光る。
- ・コロナウイルスの影響で、生徒の身体性がおきざりになる中、学校の保健体育の重要性が高まっている。
(身体との付き合い方、身体の使い方、ストレスの対処法、身体の変化への向き合い方)
- ・生徒の発言に対して「なぜ？」や「どうやって？」「何を使って？」など、思考を深める発問が効果的。

2. 山田指導主事の指導助言から

- ・授業の良さ。何度見ても変わらない本質がある。50分意欲的に活動した3年生のすばらしさに現れる。
- ・ICTの活用法 ①自分のパス動画を撮らせて残しておく→1年後、2年後、ビフォーアフター比較可能、②20～30秒の細切れで動画を撮る技術を生徒に付ける→焦点化して動画を視聴できる。その際、動画を撮り始めたときに言語活動を入れておくとよい。

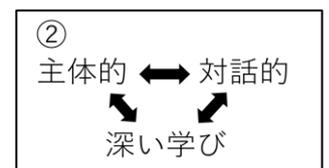
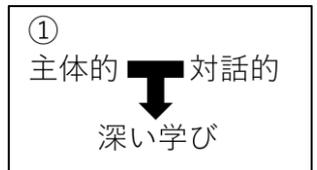
(例)「今から試合を撮ります。パワーポジションができていないかどうか注目してください」等。

そうすることで動画を見る視点が明確化され、学びが深まる。

- ・今持っている知識と、新しい知識がつながる⇒深い学びの実現
- ・自主性：誰かに言われなくても自分からやること、主体性：課題を何とか解決したいと思い活動すること。
- ・主体性を実現するためには、自分や他者との対話がもとになる。また、主体的な生徒の姿を引き出す要因の1つに、「授業のシステム化」がある。

⇒テンポがよくなり、生徒の意欲も持続する。

- ・「主体的・対話的で深い学び」とは、右図の①ではなく②。相互に関わっている。
- ・先生の、「一人一人を大切にしたい気持ち」が個への支援のアイデアにつながる。
- ・「よきこだわり」を1つ、自身の実践で。(例)場の設定・・・環境整備など
- ・全教科でふりかえりの充実を担保する。何を書くかの焦点化も必須。



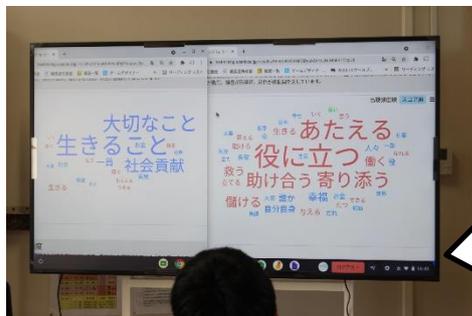
令和3年度 小中連携

《道徳教育推進拠点地域事業の連携校として》

- 各担任と須波小学校所属の道徳推進リーダー教師による週1回のチーム・ティーチング



- 6月17日（木） 第1回小中合同研修会 道徳（小学校）・・・道徳教育推進拠点地域事業訪問
・ 授業についての協議や、小中の重点内容項目についての系統性の確認
- 8月18日（水） 第2回小中合同研修会 道徳（小学校）・・・指導案検討会
・ 須波小学校公開研究会に向けての指導案検討に参加
・ 道徳の授業づくりについての交流
- 9月22日（水） 第3回小中合同研修会 道徳（中学校）・・・道徳教育推進拠点地域事業訪問



板書の工夫や
ICTの活用について協議

- 10月7日（木） 須波小公開研究会
- 11月19日（金） 四中公開研究会（ブロック公開）

新型コロナウイルスの影響により中止となっている連携行事（平成31年度までは実施）

- 小中合同あいさつ運動 ○ 小中合同クリーン活動 ○ 四中3年生による出前授業
- 小中合同研修会・・・授業研究（中学校1年生）